

Topic1. 赤潮被害の軽減が期待される改良餌料の養殖現場試験を開始しました!

有害赤潮による養殖魚への漁業被害軽減が期待される国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所が開発中の「改良餌料」について、昨年から現場実証試験を行っています。今年は、5月29日(金)から、上天草市の養殖場で飼育しているシマアジ及びマダイへの給餌を開始し、有害赤潮プランクトンに対する被害軽減効果の確認を行っていきます。



改良餌料の給餌状況



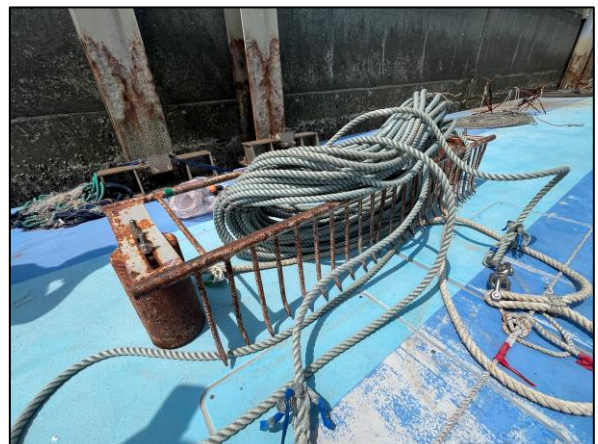
試験魚の飼育(マダイ)

Topic2. 有害赤潮の発生抑制に向けた珪藻等の増殖誘発試験を開始しました!

有害赤潮の発生を抑制するため、有害赤潮プランクトンと栄養塩を競合する珪藻等を増殖させる現場実証試験を行っています。6月22日(月)には、八代市地先において、地元漁業協同組合協力のもと1回目の海底耕うんを実施しました。今後も耕うんを数回行い、海域における珪藻の増殖状況や赤潮発生抑制効果について調査を行っていきます。



海底耕うんの実施状況



海底耕うんの器具

Topic3. 夏場のへい死対策に向けマガキ養殖の実証試験を開始しました！

近年の海洋環境の変化に伴う夏場以降のマガキのへい死対策に向け、異なる養殖手法による実証試験を行っています。6月16日(火)には、八代海北部海域において海面での垂下式と干潟での支柱式による養殖試験を開始しました。今後は、それぞれの手法におけるマガキの生残や成長等を調査し、海域の環境に適した養殖手法について検討していきます。



垂下式での養殖試験



支柱式での養殖試験

Topic4. 魚類養殖業者を対象に赤潮・魚病研修会を開催しました！

赤潮及び魚病の発生時に適切に対応できる人材の育成を目的として、若手の養殖業従事者を対象とした研修会を、6月5日(金)に天草広域本部と連携して開催しました。研修会では、有害赤潮プランクトンや魚病の発生状況等に関する講義に加え、顕微鏡を用いたプランクトンの観察実習を行いました。また、各漁場に設置されている水質テレメーターから水温や塩分等の正確な環境データを取得するため、センサーのメンテナンス講習も実施しました。今後も関係機関と連携し、赤潮の早期発見と迅速な初動対応に繋がる体制構築に向けた支援を行っていきます。



顕微鏡を用いた有害赤潮プランクトンの観察実習



センサーメンテナンス講習

Topic5. 真珠養殖業者を対象に有害赤潮プランクトン研修会を開催しました！

漁業者による自主的な赤潮モニタリング体制の構築を目的として、真珠養殖業者を対象とした研修会を6月29日(月)に天草広域本部と連携して開催しました。研修会では、有害赤潮プランクトンの特徴や近年の発生状況についての講義に加え、採水器や顕微鏡の使用方法、プランクトンの計数方法等について、資料や動画を用いて実習を行いました。今後も関係機関と連携し、漁業者自らが赤潮を早期に発見し、迅速な対応に繋げるため、体制構築に向けた支援を行っていきます。



研修会の様子(講義)



顕微鏡を用いたプランクトンの計数

Topic6. 「あさりの旬」に関する勉強会を開催しました！

「あさりの旬」について、八代漁業協同組合のあさり採貝業者を対象とした勉強会を6月9日(木)に県南広域本部と連携して開催しました。当センターは、八代市大島地区のあさりをを用いて分析したグリコーゲン量や卵量、肥満度の状況等について報告し、県南広域本部からは、現場で測定している肥満度の推移等について情報提供がありました。「あさりの旬」を客観的なデータで評価する考え方について、漁業者との共通認識を深めました。今後も関係者と連携して、各地区での肥満度等の測定指導を継続して実施し、あさりの品質向上や販売促進に関する支援を行っていきます。



勉強会の様子(説明:水産研究センター)



勉強会の様子(説明:県南広域本部)

Topic7. 県立天草拓心高校マリン校舎生徒が種苗生産の現場を見学しました！

当センターでは、県内唯一の水産系高校である県立天草拓心高校マリン校舎と連携し、将来の水産業を担う人材の育成・確保に取り組んでいます。7月8日(水)、2年生12人が種苗生産業務や水産業を支える仕事への理解を深めるため、公益財団法人里海づくり協会牛深事業場を見学しました。学校で学んでいる種苗生産の知識を踏まえ、生徒からは「夏場の高水温対策」「効率的な選別方法」等に関する質問がありました。また、見学後には「種苗生産の仕事への興味が深まった」との声があり、参加した生徒にとって、水産業を将来の仕事として考える機会となりました。



見学の様子(海面筏)



見学の様子(室内施設)

Topic8. ガザミの種苗を275万尾放流しました！

当センターでは、有明海の特産魚介類(クルマエビ・ガザミ)の資源回復に向け、効果的な種苗放流の検討を進めています。今年は、6月17日(水)から7月30日(木)までに計4回、熊本港地先及び長洲町地先において、ガザミ C1(甲幅長約5mm)及び C3(甲幅長約10mm)サイズの種苗を例年より多い計275万尾放流しました。うち、1回は輸送によるストレスを低減させるために、放流地点まで試験調査船「あさみ」による海上輸送を行いました。今後は、漁獲されたガザミの DNA 分析を行い、放流した種苗がどの程度漁獲に繋がったかを検証していきます。



放流したガザミ



放流の様子(調査船あさみ船上から)

Topic9. マガキ種苗を2ヶ月早く配付できました！

当センターでは、カキ類養殖の生産安定化に向け、種苗生産技術の安定化に取り組んでいます。今年は、昨年より約2ヶ月早い7月下旬に、種苗生産を委託している公益財団法人里海づくり協会で生産したマガキ稚貝約50万個を県内の養殖業者へ配付することができました。今回、早期に配付した小型の個体については、夏場のへい死リスクを低減させるため、成長を抑制させながら養殖する管理方法についても併せて指導を行っています。今後も、配付した稚貝の成長や生残状況を確認しながら、カキ類の生産安定化に向けた技術開発に取り組んでいきます。



養殖業者への配付状況



養殖業者への配付状況